

・・・雨でも休まず、226回、227回・・・

「小原本陣の森・若柳嵐山の森」

定例活動1、12月1日(第一土曜日):小原本陣の森・技術向上、担い手育成
成果がハッキリする共有林経路づくり。参加費400円。

定例活動2、12月16日(第三日曜日):若柳嵐山の森・里山交流、多様な森林活動
森の入り口付近の整備に注力。参加費400円。

*今月から、「団体名:生命(いのち)の森宣言・東京」が参加

- ・初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前集合、ベテランは各自森へ
 - ・服装:汚れても良い服装、着替え、長袖、滑らない足元
 - ・持参品:成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、食器(碗・箸)飲料水
- ・注意事項:危険管理・救急体制:森林ボランティア保険他、会として可能な限りの体制を敷いていますが事故・怪我は「自己責任」です。

活動は11年目に入る:次の10年の目標設定

今月11月4日・国土緑化推進機構・会長賞受賞

1998年11月20日が、森林活動の最初の第一歩でした。この間、11年目に入る当会は“雨でも休まず・・・”を合言葉に森林活動を継続してきました。2002年7月に特定非営利活動法人として登記し、2005年10月にFSC国際認証の“若柳嵐山の森”が認証されました。そして今年去る11月4日、神奈川県のご推薦により上記・国土緑化推進機構会長賞を受賞しました。

熊本県で行われた「第31回・全国育樹祭・受賞式」には、当会の新しい活動の試みを担ってくれている「望星高校・新進気鋭の宮村教諭、情熱の固まり学生連合の前川会長」、大坪長老を派遣しました。受賞の理由は、自由で柔軟な発想を成果の高い実践行動で示したNPO活動に対して、ということ。前日3日の育樹懇談会では宮村会員が皇太子殿下から直接、お言葉を賜りました。会長賞受賞者は全国で4団体でしたが、この10年間、活動を継続して来たことによって、こんな栄誉の場面に巡り合えることは、直向に森に向かう会員の真摯な活動の積み重ねによります。

森林は50年・100年の計で取り組まねばなりません。先ずは、10年を経過して一応の体制が出来た今、次の10年の目標をどうするかを考えねばなりません。この10年間は無我夢中・個人的な信念のまま、情熱のままに取り組んできましたがもう、個人的な想いのみでは無理な状況です。会員の皆さんや多くの先達の皆さん、将来を担ってくれる若人の皆さんのお知恵を頂きながら一層、お役に立てる活動にしたいと想いを新たにしています。

(石村記)

小原本陣の森・定例・活動報告：：11月 3日（第一土曜日）

・ ・ 森林整備を小原町の「本陣祭」に代えてお手伝いした ・ ・

今月の定例活動は森の地主さん・小原町内会のお手伝いに替えようと言うことで昨年同様、石井山主・石井晃さん主宰により昨年同様、榎本さんの水車のある素敵な庭先を借りての屋台のお手伝いをして祭りを盛り上げた。

石井晃さんが事前に準備万端、当会は揃いの小原町町内会の法被（ハッピー）を着て焼き魚屋を開店。11月3日文化の日は、天気が良いのが決まり。森仲間8人、川崎町つくり研究会とJR貨物6人、計14人が応援に入った。

出し物は、揚げたてのアツアツ・コロケと烏賊下足（イカゲソ）たれ焼き、焼きたてシシャモとフグ一夜干し、永井代表の差し入れの鮎塩焼き、生ビールに焼酎と来たもんだ。

しかも、石井さんは「遠くから手伝いに来てくれた緑のダムの皆さんはタダ、飲み放題・食い放題で良いよ」と言う訳で「それでは、お言葉に甘えまして・・・」と言うものの、お客様対応に追われてそうとも行かず、それに森仲間の育ちの良さと教養が邪魔をして、お客様の前でハシタナイ真似も出来ず、何時ものように一心不乱に来客の接待に追われてしまったのだ。メインイベントの大名行列には、今期から加山相模原市長が借り出されて大名に変身、加山さん、照れくさいのか緊張したのか、大名らしく威厳を保とうとしているのか、何とも形容し難い行進振りを見せてくれた。それにしても市長が、サービスをして下さるとは平和な証拠だ。

このような交流を疑問と思う会員がいるかも知れないが、都会から来た森林ボランティア活動は、地域と融合してこそ地域との軋轢のない活動になるのだから、理解して協力して欲しい。

そして、小原本陣の森の山主さんたちは、真面目で愉快的な当会の会員たちを信頼して既に、この森の7割がたの方々が「内の森もやってよ」と言って下さっている。

相模原市もこの地区の活性化に力を入れており、“どうせそれなら、森林の経済性を重視する国内認証のSGECの森にするか”など威勢の良い声も聞かれるようになっている。



若柳嵐山の森・定例・活動報告：11月18日（第三日曜日） 報告 伊藤 小夜子

“体を動かすってイイナァ～”

美しき快晴の日、紅葉に染まる。揃いの銀杏色のジャンパー姿に日大生34名。グレーの揃いのつなぎ姿の学生連合Forest Nova10名、日大森友会3名、会員参加19名、計66名。未来を担うスラスタイルの若者たちに熟女・熟男の味が加味されている秋の一日。

- ・ベース広場では、木工班・大坪さんが県立相模湖公園から受託した花壇の杭づくり（ヒノキ材150本）に励む。また、松尾さんはフォレストノバの滝澤君を助手に「木と木のつなぎ目が難しいなあ～」とかいいながら、“馬づくり（ノコ引き体験用の固定台）”をつくる。
- ・広場入り口の栗林では、ファールブル佐々木さんと学生たちが栗林の更新作業。実をつけない老木を危険予防のためにチルホールド（牽引機）を使って伐採する。一気に伐採せず新木と植え替えの方法を取るとか。
- ・沢に近い森の入り口付近では川田隊長をリーダーに、ノバの学生たちが林床整理に取り組んでいる。“美しい森は豊穡”という考えで森の入り口から徐々に奥に向かって進めとの東林業河野さんのご指導に従う。林道沿いに約10巾にズーッと刈上げて行く。午前と午後を通してノバの学生たちの勇ましい刈りで森は美しく仕上がって行く。
- ・養蜂班（日本蜜蜂）の黒川さんが空気と陽当たりの良い場所で悠々と一人作業を楽しんでいた。側にあった烏瓜（カラスウリ）の赤い実を採ってもらって、酋長の首飾りにした私！。

お昼は暖か・具タップリのトン汁、ユズ大根、古漬大根の油いため。吉池さんのテキパキ作りに石村ママは大助かり。学生たちに何時も好評料理。

- ・花畑班では熟女の中で緑一点の丸茂氏が生垣づくり。一方、熟女組は、キリの良いところまで仕上げないと気が済まない、と入れ込む。終わった後の中名主（ナカミヨウズ）さんの一言感想は、「無の胸中（境地）」。
- ・ファールブル佐々木班の午後は、落ち葉ボックスを外してカブト虫の幼虫取り。腐葉土をまさぐると50～60匹もゲット！。カブト虫・幼虫に触った初参加の松井学生の一言感想。「体を動かすってイイナァ～」。腐葉土は、花畑班に搬入。

- ・さて、この日の迫力班は、桜井先生の率いる日大生の大モニタリング調査。嵐山のアチコチに4グループに分かれて記録を取る姿。爽やかな森が一層、爽やかな風になる。
これぞ生きた学問！。
「この森は整備されているので調査しやすかったです」と相沢学生さんの嬉しい感想。

そして・本日、山主さんの庭に鈴なりの本柚子の実をもがせて頂いて、参加者全員にお土産。カドヤ会議では熟男が語る“熟女パワー談義”



* 平成19年度：国土緑化推進機構会長賞（会長・河野洋平衆議院議長）・受賞

受賞の優良市町村等

神奈川県 福岡県	特定非営利活動法人緑のダム北相模 矢部村・柳川市	山梨県 熊本県	小菅村 特定非営利活動法人天明水の会	報告 宮村連理
-------------	-----------------------------	------------	-----------------------	---------

11月3日・4日、熊本県阿蘇市で開催の「第31回全国育樹祭」に大坪、前川会員と参加しました。

3日の育樹懇談会では、皇太子さまがご出席なさるということでかなり緊張しました。しかも遠くにいらっしゃるということではなく、私たちにもお声を掛けられるということで更に緊張しました。皇太子さまからは「どんな活動をしているのですか？」と尋ねられ、森林整備をFSCと言う国際認証のルールに従って行っていること、また整備だけではなく”森をいかす、森と都市をつなぐ”活動を行っているとお話ししました。皇太子様は、登山もなさっていらっしゃるためか、相模湖の嵐山をご存知のようでした。緊張の余り記憶が定かではありませんが、森林セラピー（癒し効果）のこともお話ししたような気がします。

翌4日、育樹祭では枝打ち体験に近いものでしたが、2mに近い柄の付いた枝打ちノコを初めて見ました。高く重いはしごを使わずに高い枝を簡単に切り落とす“枝打ちノコ”に私はびっくり、この行事のための特注品かと思いましたが、どうやら市販されているようで、一考すべき道具だと思いました（事務局で買って下さいと言う意味です）。

その後、阿蘇での式典で「ふれあい森林づくり：国土緑化推進機構：会長賞」を受賞しました。この表彰をゴールとせず、更なる森林づくりに参加しようと決意を新たにしました。

会員に報告：11月18日（定例活動日）

育樹祭に参列した大久保会員から、この受賞の様子を若柳嵐山の森定例活動日に参加の会員に報告した。

神奈川県に報告：11月19日

この受賞は神奈川県のご推薦によるもので、松田緑政課長のご案内で佐藤光則環境農政部長を訪問してお礼を申し上げた。

このような榮譽に導いて下さっている神奈川県には、心から感謝すると同時に、当会のように森林に特化した市民活動こそ率先して、県民の皆さんに森を訴えつつ、自ら森林を守る責任を負うものである。

また、神奈川県「水源環境の保全・再生政策」は他県に例のない大型の森林政策で、全県民がその意義を自覚・理解して取り組まねばならない。



授賞式の様子を報告する大坪会員

私たち Forest Nova は“学生だからこそできる森林再生・保全を目指す”を理念として活動すると8月のニューズレターで言いましたが、新たに目指す方向性が決まったので報告します。

下記の方針は緑のダム北相模の“森をつくる、つなく、いかす”を参考に、学生なので“森を知る”ことも大事な要素と位置づけました。11月23日には今まで学んできたことを森づくりノートとしてまとめて、下の世代へ継承していきます。

【Forest Nova の理念】

『学生だからこそできる森林再生・保全を目指します！』

森と人の共助共生があたりまえになる社会を目指す』

【Forest Nova の方針】

『森をつなぐ』(広報班)

【発信】

今の日本の現状は、世界の森林破壊に寄与している。だから日本の木材を有効使用できるようにしなければならない。緑のダムの活動などを通して、そのことを発信していきたい。日本の森づくりを活性化させたい。

【仲間】

森づくりをしたいと思っている学生をネットワークしたい。

『森をつくる』(整備班)

【フィールドワーク】

生物多様性を守りたい。

森を守るのに必要な森林整備の現地訓練をしたい。

『森をいかす』(企画班)

【木材の有効利用 / 間伐材利用】

間伐材を利用して、使ってもらうことで森林整備の必要性を理解してもらいたい。

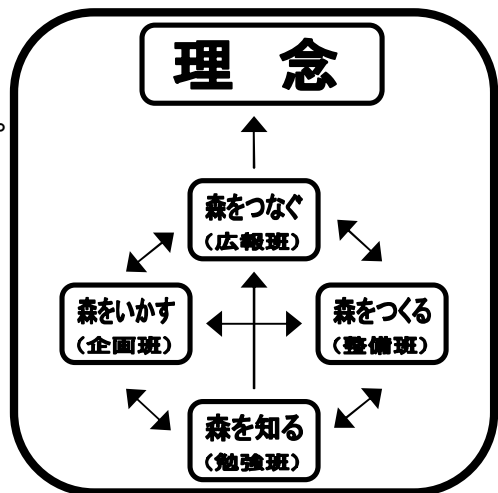
『森を知る』(勉強班)

【OJT】

専門家の方と関わっていき、森林保護のノウハウを学びたい。

【勉強会】

自分達が得た森づくりの知識を通り過ぎないようにしたい。



* 国交省相武事務所：甲州古道・夢街道：10月29日



13回目を迎えた国交省の「甲州古道・夢街道会議」は、八王子商工会議所に19名が集まった。

会議は予想もしない道路の拡幅を含む体制整備をどう作るかなどの本格的なもので、神奈川県・相模原市職員と当会からは斉藤会員・石村が参加した。

この会議での新しい提案は、八王子市も加わるべきだと言う事。また、活動の核と成っている「緑のダム」の関わりスタンスをどうするかだが、この規模になると一介の森林NPOがコンサセル状況でなく、甲府出身の斉藤会員の頭の中には「日本橋～下諏訪まで繋いでしまえ！」の考えもあり「甲州古道・夢街道協議会」のような団体を作るべきだと提案した。当然、その案に石村も賛成。

お堅いと思っていた国交省は、「日本橋と下諏訪をつなぐ、その提案も悪くない」の構え。相模湖町から受託した5年前の4本の道標がこんな形に発展するとは誰が予想したか。

* FSC・COC 流通認証 (Chain of Custody : 流通) : 10月31日 (土)

FSC 認証の巨木杉を納めた神奈川建具組合事務所で、北林 COC 審査員の聞き取り審査を受けた。箕島建具組合県産木材開発室長と当会の佐々木会員が立ち会ってくれた。



建具組合は当会の委託製作の形になっており審査に対象外で、北林審査員の当会への注文は・・・、

- 1、材を移動する時には、当会の保有する COC ナンバー : SGS-COC-2331 を記入する事。
- 2、COC 登録者である甲斐東部材製材組合に製材委託する契約書を締結しておく事。

・・・であった。この条件付きで引き続き、当会は、COC 認証団体であることを確認した。尚、FM(森林認証)審査は、隔年ごとだが COC (流通) 審査は毎年実施される。未だ実質的に材が出荷できていないのが残念だ。何とかして、新しい流通経路を構築して実稼動に結び付けたい。

JR 川崎駅東口地下街アザリア広場で開催の“木を使って森を育てる：森林循環フェア2007”が開催されました。これにわれ等「緑のダム北相模」・「緑の学校」などのNPO法人、相模川流域協議会、神奈川建具組合、県産材で家を立てる工務店、リサイクルペーパーの企業などが参加しました。

中でも一番人気は当会とオイスカ共催の「積み木の森」と県のパネル展で神奈川県の森林状況を聞きながらクイズラリーに答えると削りたての檜チップをつめ放題にもらえるとあって賑やかでした。

この会場は天候に関係なく一日中大変通行人の多い処で、どのブースの売り上げが良かったと聞きました。お客様はどちらかと言うと中年以上の方が多く、檜の香り、木の香りが懐かしい”檜の枕”は出せば売れる状態でした。

唯、20代の若者には全くの反応なし。切り株の時計・サンタ人形を見て「可愛い!」と目には留めてはくれるものの支援はしない。この人たちにどうしたら想いを共有してもらえるかが宿題になりました。



* 「小原宿活性化推進会議」：整備活動始まる。

1、孫山・本陣尾根：景観ルート踏査：11月10日（第二日曜日）



前夜から雨模様で、当日10日朝は本格的な雨。当会モットー、“雨でも休まず・・・”を小原町や相模原市に強要する訳にも行かず、と言って晴れだけの活動では事業は先に進まない。参加すると言っていた川田会員と斉藤会員に中止の電話を入れて、まっ、自分一人でもと約束の9時45分に相模湖町・小原の郷に出かけた。

アッ!、エッ?、皆さん!・・・、集合時間の5分前に“小原の郷”に着いたのだが、相模原市から柳川課長他2名、相模湖町から長谷川課長他2名、永井代表が集まって下さっているではない

か。土曜日で市役所は休みだろうに行政から6名、計8名の参加となった。

「この雨ではねー、石村さん、どうする?」と柳川課長。

「そりゃ無理ですね。どうせ事業の打ち合せも必要だから、小原集会場で話し合いませんか?」

この打合会で予想もしなかった有難い提案は、相模湖町の長谷川課長。「陣馬からの下山ハイカーを小原本陣に誘うということなら、孫山から“小原本陣の森”経由の方が合理的だから、これを第一弾整備にして、“孫山・本陣尾根景観下り”は第二弾にしたらどう？」

「緑のダム」として森が綺麗になるなら、異議ナシ！。そうならば、当会活動は、相模原市の強力な後ろ盾を得ることに成り、最近、地域の人々の森林整備が進んでメキメキ美しくなっていく「小原本陣の森」は、相模原市民に相応しい体験の森になる。遅い午後、例の千木良入り口の美味しい蕎麦屋で天麩羅蕎麦を永井さんにご馳走になって解散した。美味かった。

2、小原の郷開発プロジェクト：11月17日（第二土曜日）

まずは「小原の郷・展示館」のある道路側の土手に芝桜を植えようということになって、相模原市から観光振興課の柳川課長他4名、相模湖町から長谷川課長他4名、小原町内会から25名と計34名が集まった。作業：土手の雑草取り、土止めつくり、盛り土、芝桜苗植え。

小さい子も混ざってお手伝いしてくれて昔、小学生の頃、地域総出の道普請などがあったが、地域ぐるみでやる協働作業は、ほのぼのと暖かく本当に良いものだ。

そして、さすが人数と言うが、作業は午前中で終了、土手に植えた芝桜は来年は、綺麗な花を咲かせるだろう。

ここでも相模原市の中堅幹部職員の皆さんが率先垂範、行政がこのような姿を見せてくれることに民間と行政の協働のあり方をツクツクと考えさせられるのが「小原宿活性化推進会議」である。

仕事は昼で終わったので先週雨でやり残した、「小原本陣の森：経路設営」のための偵察に孫山頂上まで登った。手は入っていないが分かりやすい林相で、良い登山道が出来ることを予感した。



予告：来月12月から「任意団体：生命の森宣言・東京」が若柳の森に参加する。

10年前、活動を始めた当初、中西里彦さんという方が1年ばかり活動に参加していた。時折、お会いすることもあったが、中西さんが所属する事業家の会から「若柳嵐山の森」にOJT参加の申し出があった。当会は「全ての人々との協働」だから、お断りする理由はない。皆さん、宜しく。

活動のモットー：急がず、楽しく、無理せず、休まず、ポチポチと・・・・・・
そして、沢山の参加で森は良くなる。

名 称：特定非営利活動法人緑のダム北相模：若柳嵐山の森、小原本陣の森
事 務 局：154-0023 東京都世田谷区若林3-35-9
発行人：石村 黄仁 T&F 03-3411-1636
H P：http://midorinodam.jp
E-mail：info@midorinodam.jp

協働団体：神奈川県（企画部土地水資源対策課、環境農政部森林課、県北地域県政総合センター）、セブーンイレブンみどりの基金、（財）オイスカ

ご支援の団体：WWF・japan, イオン財団、神奈川建具組合、東急コミニテイ、